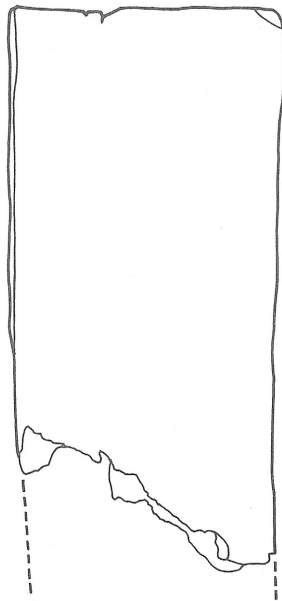






赤外線写真



上端は方頭、下端は折損している。墨痕は不鮮明で、赤外線テレビカメラ装置により一三文字が観察できる。上段に相模国の軍団名「大住團」を記し、その下段に四行書きで人名を記していると考えられる。四人めの「宮万呂」の上には、合点状の墨痕がある。

今回出土した木簡は、当時の大崎地方に他国の軍団兵士が駐屯していたことを示し、なおかつ付近に城柵官衙が存在することが推定され、古代の陸奥国経営を知る上で注目される。

なお、木簡の釈読にあたっては、東北大学の今泉隆雄氏、宮城県多賀城跡調査研究所の佐藤和彦氏からご教示を得た。

### 9 関係文献

古川市教育委員会「三輪田遺跡―平成九年度発掘調査概要」(『第二四回古代城柵官衙検討会資料』一九九八年)  
(鈴木勝彦)